

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 80
2022.12

TOPICS

1

松村健太郎研究助教が2022年度日本動物行動学会賞を受賞



学術研究院環境生命科学学域昆虫生態学研究室の松村健太郎研究助教が、2022年度日本動物行動学会賞を受賞し、11月23日に福岡市で開催された第41回日本動物行動学会で、授賞式と受賞講演を行いました。

日本動物行動学会賞は、現在の動物行動学分野における優れた研究を、研究実施者のキャリアを問わず表彰することにより、動物行動学の一層の活性化を図ることを目的に設けられました。賞の対象は、研究者個人の全業績ではなく、1つの内容と見なせる良くまとまった3編までの論文からなる業績が対象です。

今回の受賞題目は「コクヌストモドキの移動活性に対する人為選抜が繁殖形質に及ぼす影響を調べた研究」であり、「動物の行動に関する新たな現象の発見」の区分で、極めて独創性の高い一連の研究が評価されたものです。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11686.html



TOPICS

2

「おかやまSDGsアワード2022」において 学生発案講義チームが「特に優良な取組」を受賞

12月3日「おかやまSDGsアワード2022」が開催され、本学の「岡山大学SDGsアンバサダー学生発案講義チーム」が「特に優良な取組」を受賞しました。

表彰式では、本学の「岡山大学SDGsアンバサダー学生発案講義チーム」による取組『【学生発案講義！】岡山大学SDGsコラボレーション～企業のSDGs活動を知ろう～』が最上位の「特に優良な取組」の一つに選ばれ、賞状等が授与されました。

その後、受賞団体の取組発表が行われ、「岡山大学SDGsアンバサダー学生発案講義チーム」からは、赤木陽一さん（経済学部2年）と和田涼花さん（法学部2年）が登壇しました。授業担当教員のもと、学生が企画立案に関わり、運営面でもSDGs活動を行う企業を見学するために交渉等を行ったこと、今年は初の試みとして他大学から国内留学プログラムでの履修者も参加したことなどの発表を行いました。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11728.html



Pick up!

ウェイトトレーニング部が第41回秋季関西学生パワーリフティング選手権大会で団体優勝！階級別で5人が優勝！



11月27日、「第41回秋季関西学生パワーリフティング選手権大会」の団体部門で、本学ウェイトトレーニング部が見事優勝に輝きました。

階級別で5人が優勝し、女子52kg級の藤井紗希さん（法学部4年）、男子105超kg級の壺内怜帆さん（経済学部2年）は、全日本学生新記録を打ち立てての優勝となりました。

藤井さんは、「学生記録更新は私にアドバイスをくださったコーチや先輩、日頃から一緒にトレーニングした同期や後輩のお陰で達成できたものです。後輩が継続する大切さを知る契機になれば嬉しいです」と話しました。壺内さんは、「今回の大会では減量やフォームの見直しなど不安要素も多かったですが、コーチや先輩などの支えで万全の態勢で大会に挑むことが出来ました。インカレでもこの調子で新記録を目指します」と意気込みを話しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11717.html



TOPICS

3

岡山後楽園ロータリークラブから外国人留学生に防災備蓄品の寄贈 ～災害時に「誰一人取り残さない」ために～

岡山後楽園ロータリークラブから、本学留学生のために防災備蓄品が寄贈され、12月15日に寄贈式を挙行し、留学生など約30人が参加しました。

寄贈式では、岡山後楽園ロータリークラブの岡村和則会長から、『誰一人取り残さない』をスローガンに、災害時に取り残されやすい外国人留学生のための支援を行いたいとの説明があり、防災備蓄品100セットの目録が贈呈されました。この防災備蓄品は、災害時のマニュアル、非常食、防寒用のアルミ製ブランケットやトイレキットなどすべてが日英併記になっています。

留学生を代表して大学院社会文化科学研究科博士後期課程のウエスト・ステイブン・ブランドンさんから、「防災キットは日英で表記されており、特に非常時のサバイバルマニュアルは留学生にとってとても心強い」と御礼のことばがありました。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11754.html

TOPICS

4

岡山大学統合報告フォーラム2022 次世代と共に拓く「ありたい未来」を開催



12月17日、「岡山大学統合報告フォーラム2022」を開催しました。

槇野博史学長による講演では、「トランスフォームの第4期へ」と題し、「学生は最も重要なステークホルダーであり、学生たちが主体的に夢をもち、その実現を目指した活動を支援することが我々の本務である。次世代が夢に描く『ありたい未来』を共に創ることが求められている」と発信しました。

パネルディスカッションでは、「次世代と共に拓く『ありたい未来』」をテーマにディスカッションを行い、本学の経営協議会委員の亀山郁夫先生は、「岡山大学はSDGsに着目することで未来を考え、クリエイションの源を掴んでいる。岡山大学のSDGsに対する取り組みは日本の先駆的な役割を担っている」と発言しました。また、大学院ヘルスシステム統合科学研究科の中澤拓也さんは、「次世代と呼ばれる人たちが、大人や社会の尺度によって評価されるのではなく、自分たちがワクワクするものに夢中で向き合っていける社会でありたい。」とコメントしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11758.html

PRESS
RELEASE

木を搾る技術を開発し、木質バイオマス燃料の製造を効率化

岡山大学学術研究院医歯薬学域病理学(免疫病理)の大原利章助教、松川昭博教授、異分野融合先端研究コアの仁科勇太研究教授、高砂熱学工業株式会社の湯浅憲課長、木村健太郎主席研究員、カスケード資源研究所の古藤田香代子所長らの研究グループは、ローラー式圧搾機を用いて木材をストローのように圧搾する事で、効率的に脱水し、水溶性リグニンを得る技術を開発しました。木材はこれまでバイオマス発電の原料として利用されてきましたが、発電効率を上げるためにコストを掛けずに含水率を下げる事が課題でした。本技術は圧搾のみで、含水率を35%以下に下げることができ、新たなバイオマス発電の原料の製造技術として用いる事が可能です。

同時に採取される水溶性リグニンは抗ウイルス性等の機能性があるだけでなく、ナノ炭素など新素材の原料となる可能性が期待されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1030.html

